

# 小学校外国語活動における、カタカナ語を利用した英語音声データベースの構築

津市立新町小学校 教諭 西村和貴

参考 URL <http://www.kent-web.com/>

キーワード：小学校外国語活動，情報発信型，カタカナ語，マルチメディアデータベース

## 1. はじめに

平成 23 年度より本格実施された学習指導要領に小学校外国語活動がある。すでに平成 21 年度より先行実施されており、多くの学校では英語ノートを使い、歌やゲームを中心とした活動を行っている。小学校の英語活動においても児童の学びの将来を見据え、自律した学習者を目指すためには、構成主義理論を取り入れた児童主体の協働的な学びも望まれる。

一方、マルチメディアを扱えるコンピュータやコンピュータネットワークを使った学びは、児童の音声などを児童同士で共有・交流し、向上し合う協働的な学びの可能性を持っており、小学校外国語活動の有効なツールになると考えられる。外国語活動においても児童が主体的に学習するには、児童がすでに持っている既習の知識を広げ、活用していくような学習活動が有効であると思われる。

そのような知識として、英語由来のカタカナ語に着目した。児童が小学校外国語活動において意欲的な学びを行うには、カタカナ語と英語の発音の違いなどを教師が教えるのではなく、児童がすでに持っている既習の知識をもとに探究した知識を共有・交流していくような児童が主体の学びが有効であると考え。そこで、本実践では、小学校外国語活動において児童の既習の知識を活用し、自ら調べた英語をネットワーク上に音声とともに登録・共有し、交流するような学びの実践を行った。

## 2. 実践の方法

### (1) 実践方法

本実践では、小学校外国語活動において「外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむ」活動に、主体的・協働的な学びを取り入れたいと考えた。そこで、児童が持っている知識の枠組みを広げ、相互交流しながら学べるような授業を考案し、実践した。以下に手順を示す。

- ①子どもたちが知っているカタカナ語をできるだけ多くワークシートに書かせる。
- ②子どもたちが選んだカタカナ語から短文を作成させ、ワークシートにイラスト等で表記させる（ALT に伝えるため）。
- ③児童の書いた単語・短文の発音、表現を ALT にチェックをしてもらう。
- ④マイクを使い録音し、短文を児童自身がデータベースに登録する（図 1）。
- ⑤データベース登録後に、他の児童の表現や ALT の表現、自分の表現を聞き、交流を行う（コメントし

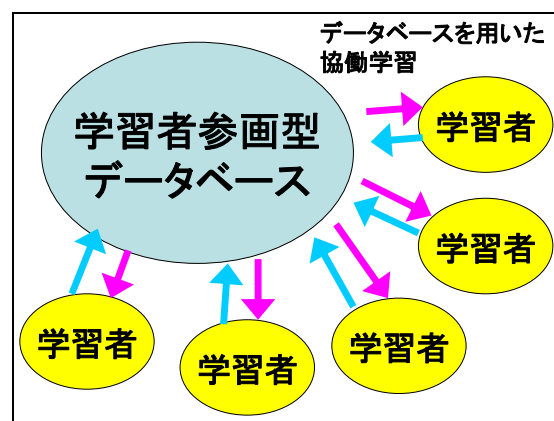


図 1 学習者参画型データベース概念図

合う）。

⑥データベースに学習の振り返りを行う。

これらの流れにより、児童がすでに持っている知識の枠を広げ、自分の英語の音、ALT の英語の音やクラスメイトの英語の音を聞き、コメントし合う学びを行うことで、英語の音と日本語の音の違いを主体的・協働的に理解する活動を行った。

### (2) 実践に用いたデータベース

今回、児童の音声の共有・交流を助けるために図 2 のマルチメディアデータベース（以下データベース）を用いた（Kent Web Data Cabinet を改造）。このデータベースの特徴は、投稿者が付けた付加情報（データの分類情報）と共に投稿した写真や音声、文字が、時系列に蓄積していくもので、その付加情報をもとに投稿内容が検索できるため（図 3）小学生にも利用しやすいこと、また、投稿内容にコメントできることである。

本実践では、学習者が情報を引き出す手段としてデータベースを用いるのではなく、学習者の知を結集しデータベースを構築していくことで学んでいくという活用を行い、データベースを用いた。

## 3. 結果と考察

本実践には、津市内 2 校 104 名の児童が参加した。データベースには、1 時限（45 分）に 2 校延べ 116 の音読（文）が投稿されており、1 人平均 1.12 文、最小 1 文、最高 3 文であった。全 116 文のうち「I Like～」など 83 文が英語ノートで学習した表現であり、その割合は全体の 71%であった。児童が相互交流によ

あたらしく登録

## 英語活動

- 勉強したことをとうろくしよう。
- みんなの勉強を見てみよう。
- ともだちの良いところをたくさんさがそう。

---

▼むずかしさをえらぶ(複数チェック可)

ふつう  ややむずかしい  やややさしい  むずかしい  やさしい  先生

---

▼ことばの種類(複数チェック可)

たべもの  もの  あいさつ  ようす  色

---

▼文の種類(複数チェック可)

すきまらい  するしたい  たのむたずねる  食べる、のむ  あいさつ  せつめい

---

▼キーワード検索

AND

---

Data Cabinet  
Copyright (C) Kent Web 2002

図 2 実践に使用したマルチメディアデータベース

**アップル** [ふつう]たべもの[せつめい] 返信:2件 登録者:11名 登録日:2010/06/14 11:29

 199.wav りんごが11個あります [返信/閲覧](#) [修正/削除](#)

---

**ニンジン** [ふつう]たべもの[すきまらい] 返信:8件 登録者:10名 登録日:2010/06/14 11:26

 195.wav わたしはニンジンが好きです [返信/閲覧](#) [修正/削除](#)

---

**トマト** [やさしい]たべもの[すきまらい] 返信:1件 登録者:2名 登録日:2010/06/14 11:25

 193.wav 私はトマトが好きです [返信/閲覧](#) [修正/削除](#)

---

**ハンバーグ** [ふつう]たべもの[すきまらい] 返信:4件 登録者:6名 登録日:2010/06/14 11:22

 186.wav わたしはハンバーグが好きです [返信/閲覧](#) [修正/削除](#)

---

**グループ** [ふつう]たべもの[すきまらい] 返信:3件 登録者:5名 登録日:2010/06/14 11:22

 185.wav わたしはぶどうが好きです

図 3 データベース表示画面

データベースに登録した英文への総コメント数は547コメントであった。その内容を分類してみたところ、発音（発音がよかった、発音がきれい、など）について43%、共感・はげまし（おれもすきー、先生みたいに言ってるね、など）が33%、聞き取りやすい（とても聞き取りやすかったです！など）11%、すらすら、スムーズ（すらすら言えてすごいです。）5%などであった。

また、実践の事前・事後に実践評価を問うアンケートを行い（4件法、4：とてもはい、3：まあはい、2：あまりそうでない、1：まったくそうでない）103名の児童から回収し、対応のあるt検定を行ったところ、「英語活動の時間は楽しいか」の問いに対して有意差が見られた( $t=-2.96, p<.01$ )。また、「英語の発音と日本語の発音のちがいはわかるか」との問いにも有意差が見られた( $t=-3.99, p<.01$ )。これらの結果から

本実践により、コンピュータやコンピュータネットワークを使った外国語の授業を楽しめ、英語の音に対する関心が高まったことが明らかになった。

さらに1校71名の児童に『この英語活動は自分が「している」「やっている」と感じる事ができたか』と聞いたところ「とてもはい」「まあはい」と肯定的な答えが90%あった。「自分の声を聞くことは勉強になると思うか」との質問には、肯定が75%であった。「友だちの声は英語の発音だったか」では、肯定的な答えが95%を越えていた。マイクでコンピュータに録音することは、自分で自分の英語の音を聞き、クラスメイトの声を聞き、改善していく良い機会になったと思われる。また、自由記述には、「自分の言葉を聞いたり友達のを聞いたりするのはとてもいいことだと思います。」や「パソコンをすることで、みんなのがきけるし、自分の悪いところもわかるのでいいと思いました。」等の感想があった。以上のことから、本実践は、児童の主体性を高めることができた。また、児童の音声をとらえ、交流していくことで、自分の学びをモニターし、クラスメイトの学びを見つめることができた。

#### 4. まとめ

本実践は、小学校外国語活動において、ICTを用いた児童自ら調べた英語を音声とともに登録・交流するような協働的な情報発信型の学びを行った。

実践を行った結果、児童の主体性や楽しさを向上させることができることが示された。また小学校外国語活動においてコンピュータやコンピュータネットワークを使った学びは、児童の音声を捉え、自分の学び、クラスメイトの学びをモニターできる可能性が見えてきた。自分の学びをモニターし自己の学びを修正していける学習者の育成を目指し、今後もICTを使った学習方法の開発に取り組んでいきたい。